

グローバル・スタディーズ研究センター 2012年度プロジェクト

2012-1

平成 24 年度活動計画

1. 概要

平成 24 年度は、センター発足 5 周年となる平成 25 年度に向けて、発足以降のセンターの体制・活動を見直すと同時に、今後のセンター運営に際しての長期的な方向性を検討する。本センターは、グローバリゼーション研究を趣旨とするが、グローバリゼーションの進展に伴って、世界各地で弱者の周縁化と排除が進行してきたことが報告されており、社会文化的背景の多様性を踏まえつつ、グローバリゼーションの恩恵から取り残されてきた人々を対象とする研究が必要とされている。本センターでは、こうした要請に答えるべく、新たに「グローバル化社会の人間の安全保障に関する研究」を総合課題として研究教育活動を推進する。

「人間の安全保障」は、国民国家の枠組みを超えたグローバルな協力によって、弱者を人権侵害や危険性から保護することを目指す新しい安全保障と人間開発の包括的概念であり、多くの分野の学際的協力によって研究教育が推進されている。本センターは、2009 年以降、加盟団体として、人間の安全保障教育研究コンソーシアムに参加してきた。コンソーシアムが発展し、昨年度、「人間の安全保障学会」が設立され、さらなる発展が期待されている。本センターは、こうした動向を受け、グローバリゼーションと人間の安全保障に関する研究を重点課題として研究を推進する。

また、本センターが推進母体のひとつとなり、平成 22・23 年度大学教育推進プログラム「フィールドワーク型初年次教育モデルの構築」を推進してきたが、学部を対象とした教育プログラムであった。本センターは、本来、国際関係学研究科附属のセンターであり、今年度は、学部のみならず、大学院教育を対象とした教育プログラムを試行的に推進することを計画している。

以下に、各教育プログラムと研究・社会貢献プロジェクトの概要を示す。平成 24 年度は、7 件の教育プログラムと 20 件の研究・社会貢献プロジェクトを、グローバル・スタディーズ研究センター事業として認定し、推進していく予定である。なお、以下の事業には、研究員就任予定者による事業も含まれている。

(以下省略)

2012-2

2012年5月25日（金）開催

セミナー「中部アフリカにおける森林保全と開発プロジェクト」

グローバル・スタディーズ研究センターは、地球規模課題対応国際科学技術協力事業「野生動物と人間の共生を通じた熱帯林の生物多様性保全」との共催で、ガボン人文科学研究所（Institut de Recherche en Sciences Humaines）の Guy-Max Moussavou 研究員をお招きしてセミナー「Forest Conservation and Development Projects in Central Africa 中部アフリカにおける森林保全と開発プロジェクト」を開催いたしました。Moussavou 氏からは、ガボンの生物多様性保全や森林管理政策の現状に関する報告があり、ガボンが直面している課題について議論が交わされました。

Seminar: Forest Conservation and Development Projects in Central Africa

日時：5月25日（金）10:40～

場所：国際関係学部棟4階共同研究室

話題提供者：Guy-Max Moussavou 氏（ガボン人文科学研究所研究員）

専門は文化人類学、開発研究。これまでにガボンにおいて、1. 狩猟採集民ピグミーの言語や儀礼に関する人類学的研究、2. 森林伐採権管理、開発事業フィージビリティ、伐採・石油採掘の環境影響などについての社会経済調査を行ってきた。

プロフィールを以下のページ（フランス語）を参照

<http://interculturalite.refer.ga/spip.php?article29>

共催：

「野生動物と人間の共生を通じた熱帯林の生物多様性保全」

(http://www.jst.go.jp/global/kadai/h2006_gabon.html)



2012-3

2012年6月5日(火)開催

第1回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー

本センターは、第1回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナーを下記の通り開催いたしました。

日時：6月5日(火) 16:20～

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

プログラム：

趣旨説明

研究発表1

発表者：ヤント

タイトル：「インドネシア・ジャカルタ都市住民ブタウィ人のアイデンティティの変容」

コメンテーター：奈倉京子

研究発表2

発表者：畢穎続

タイトル：「ストレイン理論の妥当性に関する日中比較研究」

コメンテーター：青山知靖

2012-4

2012年7月3日(火)開催

第2回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー

本センターは、第2回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナーを下記の通り開催いたしました。

日時：7月3日(火) 16:20～

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

プログラム：

事務連絡(次回セミナーの日程と発表者について他)

研究発表1(発表20分、質疑応答20分)

発表者：高井恵美

タイトル：「日本語学習者の終助詞「よ」、「ね」、「よね」の使用に関する研究」

コメンテーター：澤崎宏一(国際関係学部准教授)

研究発表2(発表20分、質疑応答20分)

発表者：サンジーワ

タイトル：「スリランカの民族紛争と戦争歌」

コメンテーター：玉置泰明

2012-5

2012年6月14日(木)開催

特別講演「スリランカにおける社会開発の実践」

グローバル・スタディーズ研究センターは、スリランカで地域の社会開発をテーマに、特別講演「スリランカにおける社会開発の実践」を開催いたしました。

最初に、(株)エックス都市研究所国際コンサルティング事業本部環境事業開発チームチームマネージャーの河村愛さんから、スリランカにおけるエネルギー問題、東南アジアを取り巻く社会事情やアフリカのモザンビークでの燃料植物の栽培促進を伴った農村電化事業、エネルギー問題、環境問題コンサルタントという仕事について、スライドを使用しながら説明していただき、質疑応答を行いました。

次に NEST という NGO の CBR コーディネーターの Priyantha Gunasinghe さんから、スリランカにおける CBR (コミュニティベースのリハビリテーション) 活動についてスライドで現地の写真を見ながら詳しく説明していただきました。プランテーションの労働者や、その子供たちとの交流、HIV陽性の子供達のグループホームや精神障害やDVの被害女性のグループホームなど現在行っている活動など幅広く話をお聞きし、講演後は質疑応答を行いました。

グローバル・スタディーズ研究センター主催特別講演

講演題目：スリランカにおける社会開発の実践

日時：平成24年6月14日(木) 10時40分から12時10分

場所：国際関係学部棟 3108講義室

実施担当：石川研究室



2012-6

2012年7月30日(月)開催

大学院生企画ワークショップ「犯罪理論の国際的な応用可能性に関する実証検討」

本センターは、犯罪学、福祉社会学がご専門の九州大学の上田光明先生をお招きして、犯罪理論の国際的な応用可能性に関する大学院生企画ワークショップ「犯罪理論の国際的な応用可能性に関する実証検討」を開催いたしました。

主催：国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター（大学院教育プログラム）

日時：2012年7月30日(月) 16:20～17:50

場所：国際関係学部棟3階3317教室

発表1

発表者：畢 穎続（ヒツ エイゾク）（国際関係学研究科・修士課程国際関係学専攻2年）

タイトル：「ストレイン理論の妥当性に関する日中比較研究」

発表2

発表者：上田光明（九州大学キャリア支援センター・特任准教授）

タイトル：「アジアにおける二国データを用いた犯罪原因論の検証」

2012-7

2012年9月24日(月)開催

第3回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー

本センターは、第3回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナーを下記の通り開催いたしました。

日時：9月24日(月) 10:40～12:10

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

プログラム：

発表1 (発表 20分、質疑応答 20分)

発表者： 烏日娜

タイトル：「戦後日中大学入試制度の変遷とその課題」

コメンテーター： 奈倉京子

発表2 (発表 20分、質疑応答 20分)

発表者： 楊秀霞

タイトル：「中国帰国留学生「海帰」の生きる道—2000年代の「新海帰」に注目して—」

コメンテーター： 富沢寿勇

2012-8

2012年10月30日(火)開催

第4回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー

本センターは、第4回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナーを下記の通り開催いたしました。

日時：10月30日(火) 16:20～17:50

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

発表1 (発表20分、質疑応答20分)

発表者：インゲル

タイトル：Comparative analysis of speech errors in Mongolian, Chinese and Japanese

コメンテーター：ジョナサン・ディハーン (国際関係学部准教授)

発表2 (発表20分、質疑応答20分)

発表者：渡辺友穂

タイトル：「ワールド・ミュージックとしての「君が代」

コメンテーター：犬塚協太

2012-9

2012年11月19日(月)開催

特別講義「Doing Business Globally」

グローバル・スタディーズ研究センターは、グローバリゼーションと国際経営をテーマに、特別講義「Doing Business Globally」を開催いたしました。

本学の国際交流提携校であるカリフォルニア大学バークレー校よりジム・リンカーン教授をお招きし、グローバリゼーションと国際経営をテーマに約1時間の講義と質疑応答を行っていただきました。本講義は国際関係学部講義「国際行動論B」の1回に相当する形式で行われましたが、大学院生や教員の多数の参加も得て、盛会のうちに行うことができました。講義内容は、グローバル化時代の国際企業の在り方の変容を概観し、その中で仕事をしていくための条件を考える、というものでした。講義後の質問も活発で、学生たちにとって貴重な機会となりました。

グローバル・スタディーズ研究センター主催特別講演講義

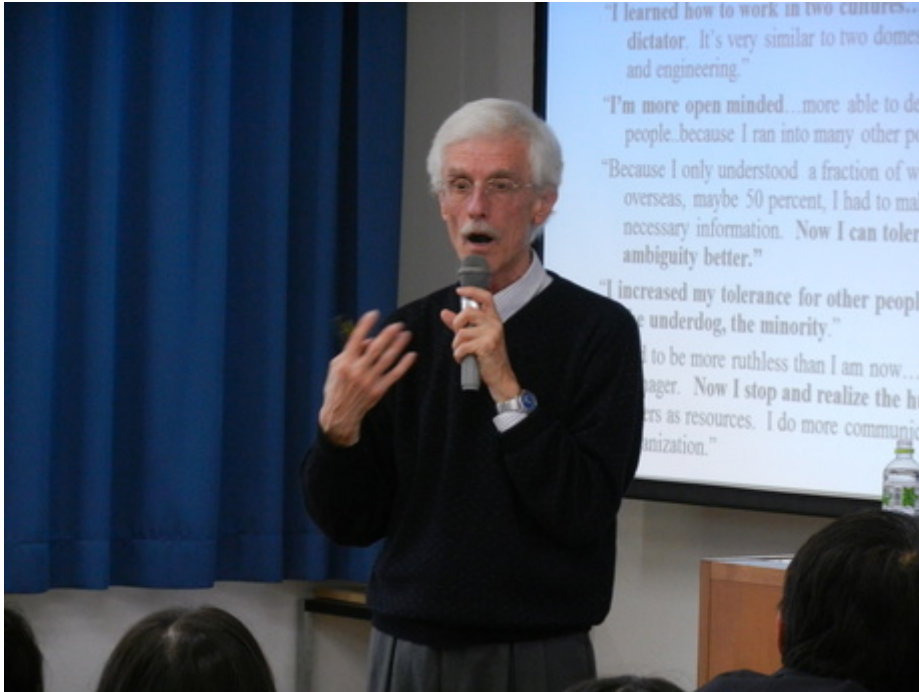
テーマ：グローバリゼーションと国際経営 Doing Business Globally

日時：平成24年11月19日(月)13時から14時30分

場所：国際関係学部棟3315講義室

実施担当：飯野勝己





2012-10

(日付不明)

公開シンポジウム「裁判員裁判制度と要通訳事件の3年間を振り返る 法廷通訳人の経験から」

本センターは、公開シンポジウム「裁判員裁判制度と要通訳事件の3年間を振り返る 法廷通訳人の経験から」を共催いたします。

本シンポジウムは、日本語を十分に解しない人が被告人や証人となった裁判員裁判で法廷通訳人を務めた経験のある方にご参加いただき、経験を共有するとともに、法廷通訳人のおかれた環境整備に向けて、法曹関係者との意見交換を試みるものです。

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/event/sympo121208/index.html>

2012-11

2013年1月12日(土)開催

一般公開ワークショップ「難民ってなんだろうーアジア・アフリカの国からはみだした人々」

本センターは、難民、移民、国際交流、フェアトレード、グローバリゼーションに関する公開ワークショップを以下の要領で開催いたします。

一般公開ワークショップ「難民ってなんだろうーアジア・アフリカの国からはみだした人々」

■主催：静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター

■共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「移民／難民のシティズンシップー国家からの包摂と排除をめぐる制度と実践」・科学研究費補助金 基盤研究 (B)「東アフリカ・マー系社会の地域セーフティ・ネットに基づく在来型難民支援モデルの構築 (課題番号: 20401010)」

■趣旨

グローバリゼーションの時代、地球上を様々な人々が移動してきました。その中には、国家との関係の問題に直面せざるを得なかった人々がいます。このワークショップでは、難民、国内避難民、移民、無国籍者について研究してきた研究者が、それぞれのカテゴリーに関して、世界各地での調査研究成果をわかりやすく報告します。そして、その成果をめぐって、開催地である静岡地元の高校生や大学生等、若者たちと話し合う予定です。また、高校生や大学生による国際協力活動についての報告を研究者と話し合うことも予定しています。大学等の研究者と生徒・学生を含む一般市民の皆様との対話の機会となることを期待しております。難民、移民、国際交流、フェアトレード、グローバリゼーションについてご関心をおもちの皆様のご参加をお待ちしております。

■生徒・学生のみなさんへ

難民ってなんでしょう。私たちの多くは、難民ってなんだろう、ということを考えなくても毎日を生きていくことができます。でも、世界に目を向けてみましょう。世界には、4,200万人もの避難している人々がいます。とくにアジア・アフリカにはこうした人々がたくさんいます。また、私たちの多くにとっては「国」はあたりまえのことですが、世界には「国」からはみだして困っている人々がいます。私たちと世界とのかかわりは日に日に深まっています。このワークショップでは、難民、国内避難民、移民、無国籍者などさまざまな人々の立場になって考えてみましょう。そこから今の世界が見えてくるはずです。現場で長年調査をしてきた研究者の先生の報告を聞きながら、みなさんといっしょに考えてみたいと思

います。

■日時: 2013年1月12日(土) 14:00-16:00

■会場: 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 会議ホール・風
アクセス情報 <http://www.granship.or.jp/parking/index.html>

■入場: 無料

■事前予約: 不用

■プログラム*

14:00-14:10 はじめに

[パネリストによる報告]

14:10-14:25 錦田愛子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教)「難民: 離散65年後のパレスチナ」

14:25-14:40 三尾裕子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所副所長、教授)「移民: ベトナムで現地化した中国移民」

14:40-14:55 湖中真哉(静岡県立大学国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター副センター長、国際関係学部准教授)「国内避難民: 東アフリカのみすてられた人々」

14:55-15:10 陳天璽(国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授)「無国籍者: 日本でどう生きているのか」

15:10-15:25 休憩

15:25-15:45 パネリストと生徒・学生との質疑応答 15:45-15:55 吉原高校国際科の国際協力活動についての発表

15:55-16:00 吉原高校国際科の生徒とパネリストとの質疑応答

*高校生・大学生による報告や質疑応答も予定されているため、記載時刻は目安とお考え下さい。

■パネリスト報告の要約

難民 [錦田愛子]

パレスチナ難民とは 1948 年のイスラエル建国以来、故郷を追われて世界中に散らばった人々のことを指します。中東の一番豊かな場所で、同じ土地の奪い合いが起きたことが、いまでは 500 万人を超える人々をさまよわせることになりました。難民となり 65 年目を迎えて、彼らはどのような生活を送っているのでしょうか。現在の生活の様子や、人々が抱く希望についてみていきます。

移民 [三尾裕子]

今日、パレスチナ出身の人々のように、世界に散らばりつつ祖国を建設するという夢を共有する人々があります。しかし、こうした「遠隔地ナショナリズム」は今日に限った事ではありません。17 世紀の中国の明清交代期にも、清に服従したくない人たちが東南アジアに分散し、祖国の再建を夢見ました。彼等はその後に大量に渡ってきた移民とともに、どのような道を歩んだのか、ベトナムの「明郷」を事例に考えてみましょう。

国内避難民 [湖中真哉]

災害や紛争などがきっかけで住みかを追われ、避難しなければならなくなった避難民は二つに分けることができます。国の外に逃げた「難民」と国内にとどまった「国内避難民」です。国内避難民は、外国の支援を受けることができず、難民よりさらにつらい毎日を生きていることもあります。東アフリカのある国内避難民の人々は国からみすてられてきました。しかし、そのつらい毎日をひとびとは生きぬいてきました。

無国籍者 [陳天璽]

無国籍者とは、読んで字のごとく国籍のない人々を指します。世界には 1,100 万人いると推測されており、日本にも存在します。彼らはどのような人々なのでしょう。なぜ無国籍になったのでしょうか。そして、どのような暮らしをしているのでしょうか。日本にいる無国籍者に注目し、具体的な事例を通して無国籍問題について考えます。

■チラシ

下記よりダウンロードできます。

表面 <http://africa.u-shizuoka-ken.ac.jp/~africa/ws/01.jpg>

裏面 <http://africa.u-shizuoka-ken.ac.jp/~africa/ws/02.jpg>

■お問い合わせ先: 〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター 湖中真哉
電子メール: maaculture@gmail.com

2012-12

2012年12月4日(火)開催

第5回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー

本センターは、第5回グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナーを開催いたしました。

日時：12月4日(火) 16:20～17:50

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

発表（発表40分、質疑応答20分）

タイトル：「アフリカ熱帯林の狩猟採集社会の現代的变化」

発表者：松浦直毅（国際関係学部助教）

2012-13

2013年1月29日（火）開催

大学院生企画ワークショップ「内モンゴル自治区牧畜社会における遊牧的生活様式と民族教育の変化」

本センターは、中国政府による改革開放政策の推進が内モンゴル自治区に暮らす牧畜民の生活様式や民族教育に与えた影響を主題とし、大学院生企画ワークショップ「内モンゴル自治区牧畜社会における遊牧的生活様式と民族教育の変化」を開催いたしました。

主催：国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター（大学院教育プログラム）

日時：2013年1月29日（火）16:20～17:50

場所：国際関係学部棟3階3317教室

発表1

発表者：ス・イジェ（愛知県立大学大学院国際文化研究科博士課程）

タイトル：「内モンゴル東部牧畜地区における地下資源開発と生態保護政策」

発表2

発表者：阿力瑪（静岡県立大学大学院国際関係学研究科修士課程）

タイトル：「内モンゴル自治区における定住化政策がもたらした牧畜民の世帯戦略と教育の関係の変化」

コメンテーター：高畑幸

2012-14

2013年2月7日（火）開催

グローバル・スタディーズ研究センター院生セミナー特別企画講演「『科学と社会』を見ることー生命科学と3.11を事例としてー」

本センターは、これから修士論文に取り組むM1学生を主な対象として、研究の進め方、データの分析、論文の執筆などの基本手法を学ぶことを目的とした、グローバル・スタディーズ研究センター院生合同セミナー特別企画講演「『科学と社会』を見ることー生命科学と3.11を事例としてー」を開催いたしました。

日時：2月7日（火）16:20～17:50

場所：国際関係学部棟 3317 講義室

タイトル：「『科学と社会』を見ることー生命科学と3.11を事例としてー」

講師：標葉隆馬先生（総合研究大学院大学助教）

標葉隆馬先生プロフィール

専門は科学技術社会論。「科学と社会との間で生じる議論において、異分野領域間においてどのように知識や情報が共有されているのか、またその言説や表象といったものが、どのように分析・記述・解釈できるかという関心から研究」（講師ウェブサイトより抜粋）している。これまでに、遺伝子組み換え食品や幹細胞・再生医療をテーマに、生命科学をめぐる現代的状況や制度を中心に検討しており、最近では、東日本大震災・原発の問題について、政策文書や新聞記事などの分析を通じてアプローチしている。近著に「災害弱者と情報弱者：3.11後、何が見過ごされたのか」（共著）（筑摩書房、2012年）、「ポスト3.11の科学と政治」（分担執筆）（ナカニシヤ書房、2013年）などがある。